

第7回「みなかみ町協働のまちづくり委員会」会議録

1. **開催日時** 平成21年6月17日(水) 午後7時~午後8時45分
2. **開催場所** 役場本庁6階 第3会議室
3. **出席者数** 20名(委員15名・事務局5名)
詳細は席次表のとおり
4. **開 会**
 - ・事務局が開会を宣言する。
 - ・事務局が欠席委員1名を報告する。(河合委員)
 - ・事務局が会議資料の確認をする。(事前郵送資料：前回会議録案、次第、資料1、資料2 本日配布資料：次第(差し替え)、人材育成基本方針、新聞掲載記事)
5. **委員長挨拶**
 - ・松井委員長が挨拶する。
 - ・短時間で効率よく協議したい。9月までクールビズの服装でお願いしたい。
6. **協議事項**
 - ・松井委員長が議長となり、以下のとおり進行する。
 - (1) **第6回委員会会議録案の確認について**
会議録案のとおり訂正なしで承認される。
 - (2) **協働のまちづくり委員会委員の推薦について**
 - ・事務局が新治地区の猿ヶ京温泉旅館「樋口」の女将さんである「樋口桂子氏」を田村委員から推薦があったことを説明する。
 - ・田村委員が樋口氏について補足説明をする。女性の委員を増やしたいと思った。前向きな人なので、彼女らしい意見を出していただけたらと思う。まちづくりに協力していただける人だと思う。

樋口桂子氏を委員会の委員とすることで承認される。次回7月の委員会から出席してもらうことで決定する。
 - (3) **まちづくり協議会設立準備会について**
 - ・事務局が経過説明をする。
 - ・議会全協、区長会役員会でまちづくり協議会設立について説明を行った。
 - ・今月3地区で各区長、協働のまちづくり委員及び町職員による設立準備会を開催し説明会を行う。(6月24日水上地区・29日月夜野地区・30日新治地区)
 - ・設立準備会では、協議会の構成員の選出や規約等について検討を行うので、ご協力をお願いしたい。

【委員からの質問・事務局の回答】

Q) 協働のまちづくり委員の立場はどうなるのか？

A) 各区長、協働のまちづくり委員（評価・検証部会の委員を除く）及び町職員により、3地区で設立準備会を開催し検討を進めていくことで、前回の委員会で承認されている。本委員会と設立準備会を平行してご協力をお願いしたい。

Q) 設立準備会の開催は、月何回ぐらいを予定しているのか？

A) 月1～2回程度の開催を予定している。

（4）みなかみ町人材育成基本方針の概要について

- ・事務局（宮崎次長）が人材育成基本方針に基づき説明する。
- ・行政ニーズの多様化、厳しい財政状況及び地方分権の進展等により本格的に職員の人材育成が必要となった。
- ・昨年5月に町職員から策定委員を募集し、応募委員14名と事務局7名により検討を進めてきた。
- ・今後は、本方針に基づいて人事評価制度を導入していくことになる。
- ・詳しくは、本方針を読んでいただきたい。

【委員からの質問・事務局の回答】

Q) 現在、町職員は何人いるのか？

A) 309人いる。

Q) 今後、具体的にどのように進めていくのか？

A) 毎日の業務をこの基本方針に基づいて対応していくことになる。今後、人事評価制度を導入していくことになるが、その評価の際の基準になっていくと思う。運用にあたり検証委員会を設置し意見交換をしていくことになる。

（5）情報の共有について（資料1・2）

- ・事務局が資料1及び資料2に基づき説明する。
- ・みなかみ町ホームページのアクセス数は、平成20年で年間約142万件、7月、8月、10月の行楽シーズンのアクセスが多い状況で、観光の町であることが伺える。
- ・一人平均13ページほど見ている状況で、観光情報の検索が半数を占めている。
- ・つなぎ資金貸付け情報を町のホームページにアップした。7月号の広報紙にも掲載する。また、現在1件の貸付けを行った。
- ・町へのご意見箱（メール）の周知について、7月号の広報紙に掲載する。
- ・まちづくり出前講座の実施については、役場内部で検討していきたい。
- ・前回の委員会に引き続き、ご意見をいただきたい。

【委員からの質問・事務局の回答】

Q) ヤフーのトップページの右下にあるイベント情報にみなかみ町周辺のイベント情報が出ないのは何故なのか？

A) 情報担当と調整し検討したい。

Q) 以前実施した町民アンケートのまとめはどうなっているのか？町民の情報として役立てることができるので、委員会に情報を提供してもらいたい。

A) 次回の委員会までに集計を各委員へ配布したい。アンケートは、町民3000人を無作為に抽出して行い、回答者数は1300人位であった。

【委員からの意見】

- ・馬場委員より、情報銀行について知らない委員もいるので、説明してほしい。
- ・九州の氷川町では、各地区に情報銀行を設置し町職員一人を配置してまちづくりを行っている。ここにまちづくり情報を集めるとともに、住民からの意見を集約してまちづくりを進めている。下から上へといったまちづくりを実践している。
- ・児童がいない人には学校からの情報は入らない。情報銀行のようなものがあると児童がいない人も学校の情報が入り、地域住民が自ら考え、地域で協力できることが可能になると思われる。

【事務局の説明】

- ・住民が情報を知るための具体的な方法を提案してもらえるとありがたい。

【委員からの質問・事務局の回答】

- Q) 資料2 提案8の災害時等の情報伝達経路網の確立について、町はどのように対応していくのか? みなかみ町独自で防災訓練を行うことを聞いているが、この情報伝達経路網が必要になってくると思う。
- A) 防災訓練は、実施する予定である。災害時等の情報伝達経路網については、総務課を中心として、具体的に検討している状況である。

【事務局の説明】

- ・資料2については、前回配布した資料2が詳しく書いてあるので、両方を見比べながら検討していただきたい。

【委員からの意見】

- ・災害時に一番困るのが孤立したときの情報提供であると思う。
- ・緊急時の情報提供は、ほとんどの人が携帯電話を持っているので、携帯電話により行うことが不可欠であると思う。携帯電話を使用しない人の把握も重要であると思う。
- ・まちづくりの情報提供は、メルマガ登録による方法もよいと思う。メーリングの分類の仕方は難しいと思うが、アンケートにより把握したらどうか。
- ・役場からいつを目処にどうなるかを説明してくれれば信頼関係は生まれると思う。コミュニケーション不足が住民の不信感を招くと思う。

【事務局の説明】

- ・災害時、一人暮らしのお年寄り等がどこにいるのか分かるシステムを今年度を導入する予定である。また、行政評価のアンケートは、役場職員で入力し年代別やクロス集計等を行ったことで、時間がかかってしまった。

【委員からの意見】

- ・携帯電話は、災害時につながらなかった経験がある。現代の便利なものは、いざというときにあてにならないと思う。組織的(人的)な連絡網でないとダメだと思う。
- ・アナログの究極は、昔の五人組であると思う。近所同士の付き合いがなくなってしまった。日頃から地域で話し合うことが重要であるので、五人組の組織をつくったらどうか。また、道路愛護の後の飲み会もなくなってしまった。

【委員からの質問・事務局の回答】

- Q) 災害時の情報伝達経路網の関係で、区長と民生委員により要支援者や一人暮らしのお年寄りの確認はできているのか？
A) 今年度、システムを導入することになっている。

【委員からの意見】

- ・情報の共有は、発信者と受信者に分けて考えた方がよいと思う。例えば、来月から国民健康保険税が増える場合、どのように情報を発信した方が町民全員に伝わるかを具体的に考える方がよい。受信者にとっては、知りたい情報が知りたい時に入る方法を考えた方がよい。知りたい情報は、千差万別である。また、ニセコ町では、町民が知りたい情報を短時間で情報提供できるシステムがあり、職員は定期的にこの研修を行っている。
- ・町民は、町の情報を知りたがっていないのかも知れない。
- ・回覧板や広報を出しても見ない人は見ないし、よいシステムを導入しても無駄になっては困る。先ほどの要支援者等の情報システムを導入しただけで終わってしまってはダメだと思う。運用が大切である。

【議長より委員へ質問】

- Q) 町の情報を知りたい場合、どうしているのか？
A) ホームページである。
A) 知っている人に聞くことが早いと思う。町が見てほしい情報を見てもらえないのは困る。
A) 知りたいことは、役場や議会に聞く。
A) 学校の情報は、学校の通知で分かる。町は、確実な情報でないと発信しないが予定でもいいから早く情報を発信してほしい。
A) 知りたい情報は、自分で行動を起こし入手している。
A) 知りたい情報は、自分で聞いている。

．．．．．午後 8 時 1 5 分～（10 分間休憩）．．．．．

【委員からの意見】

- ・原点に戻って隣近所のコミュニケーションを大切にする必要があると思う。区長制度をもっと大事にしてほしい。住民の代表である区長の区長会を代表制にしたことが問題であると思う。住民の代表であるという意識を持っている区長は非常に多いので、町は全区長へ情報発信する必要があると思う。
- ・地域は、区長がトップである。
- ・町は、地元のトップである区長とのコミュニケーションを取るべきであると思う。
- ・名胡桃プールの廃止の説明を地元区長さんへ話してもらいたかった。

【委員からの質問・事務局等の回答】

- Q) 後閑プールは、どうして休止になっているのか？
A) 施設の統廃合をしないと財政的にもたないということは理解してもらいたい。名胡桃と後閑を合わせて年間 5 0 0 万円程かかっている。
A) 埼玉県富士見市で事故があったものと同様な構造であるため、改修しないと使えない。改修費を予算化できないため、休止になっていると聞いている。

【委員からの意見】

- ・町は、後閑プールの休止ことを詳しく説明していない。財政的や危険性の説明は、回覧には書いてなかった。

【議長より説明】

- ・区長制度の見直しは、担当課へ調整していただきたい。
- ・今後の委員会は、委員より提案していただいた提案 1～9 を各委員から説明してもらい具体的に検討していきたい。その他、提案があれば事務局へお願いしたい。

(6) その他

- ・次回委員会の開催について
第8回 平成21年7月15日(水)19:00～ 本庁6階第2会議室
- ・8月の委員会は、まちづくり協議会の設立の関係で、休みにしたい。
- ・講演会の実施も検討したい。
- ・8月末～9月上旬頃に視察研修を行いたい。正副委員長と事務局で、視察地を検討したい。視察したいところや日帰りか泊まりで行うのかを事務局へ報告してほしい。

7. 閉 会

- ・事務局が閉会を宣言する。

第7回「みなかみ町協働のまちづくり委員会」 席次表

日時：平成21年6月17日（水）19：00～

場所：みなかみ町役場（6階）第3会議室

